

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 25 号	2003年8月24日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 7月24日（木）下松農業委員会のご一行様24名がビオトープの勉強と見学に来られました。会長、西原会員、原田事務局長による説明を行いました。
- 7月24日（木）藤山市民センターにて、婦人学級のビオトープ講和があり、田村会員が講師として参画されました。
- 8月3日（日）今日の作業は、真夏の太陽の中、会員約15名でたんぼと駐車場の草取りを行いました。大変暑い一日でした。
- 8月9日（土）菊川町マイタウンネットワークのメンバー11名が、ビオトープの見学に来られました。今井会長と原田副会長が対応されました。
- 8月23日（土）今日は夏大本番といった感じのとても陽射の強い天気、でもこれも大切な行事の一つです、冬の蕎麦を食べるため、皆で頑張って、蕎麦の種まきを行いました、今年もきっと美味しい？蕎麦が食べられることでしょう。
- 8月23日（土）ほんとに暑かったです、午前中の作業に続いて、子供達の自然観察隊が行われました。本日のお題は「魚と水生昆虫」、捕獲手段には魚釣り、タモ網、セルビン、投網と色々ためしました、収穫は結構なもので、色んな魚や昆虫が観察できたと思います。その中でも、大好評だったのが魚釣りです。（参加者、子供12名、大人24名）

2. 今後の予定（事務局 記）

見学者

- 9月18日（木）上宇部ふれあいセンター成人学級ご一行 案内役原田満他2名未定

行事

- 8月28日（木）蕎麦の種補蒔き、草原ゾーンの整備
- 9月7日（日）作業
- 9月16日（火）やまぐちパートナーシップ広域会議参加 今井会長、原田事務局長
- 9月20日（土）作業と、里山自然観察隊

3. 会員の声

二俣瀬ビオトープの観察隊に参加して（納屋 早与子 記）

先日、遊ロードを歩いていて、すてきな出会いがありました。なんと、蝶の産卵に出会ったのです。スミレの葉っぱにとまった蝶がおしりをちょこっと曲げて、飛び去ったあと、覗いてみると、小さな小さな真珠がそこにはありました。こんな小さな卵がああなるなんて。（蝶はヒョウモンチョウの仲間でした。）さて、自然観察隊が始まりました。私は「虫」の会から参加しました。集まった子どもたちを前に、指導員の方からの説明があります。「まず虫を触ってみて下さい。臭いをかいでみて下さい。そして、虫を好きになって下さい。」と話されました。私は虫が嫌いです。なぜ嫌いかというと、虫はからだの割に細い足をしています。しかも足がもげても血も出ずに、そのまま逃げていきます。人間だったら、どんな神経をしているのか？！といったところでしょうか。小さい頃、私は父とよく一緒に近所の貯水場にコオロギやバッタを取りに行っていました。幼い私でも捕まえられるような虫だったのですが、そのぶん力のいれ加減もわからずに足がとれてしまい、それでも逃げていくバッタを見ながら、かわいそうなことをしてしまったと自責の念にかられました。私の家の近くでも、よく階段に（照明に集まったのでしょう）カブトムシやクワガタが転んでいます。転んでもがいている姿を見てかわいそうだと思い、カバンやハンカチなどにつかまらせて起こしてやるとさあ大変！！今度はいくら揺すってもはなれようとしません。そのまま部屋に連れてはいることもできず、また階段を下りて木に止まらせてやろうとすると、その途中でブーンと飛んで逃げます。また、時にはあまりにも離れないので、逃げ出して部屋の中で飛び回らないように、カブトムシの止まったハンカチをカバンに入れ、砂糖水を与え、部屋に泊めたこともあります。さらに、朝、鳥につつかれて、からだの半分になっているものもいます。それでもまだ手足？！をばたばたさせています。そんな姿を見ると、かわいそうで目を背けずにはいられません。でも、子どもたちが蝶やトンボを追いかけている姿はほほえましいものがあります。今、私は大内塗をしていますが、その絵柄は、桜だったり、土筆だったり、蝶々だったり、川を泳ぐメダカだったり、里山の風景そのものです。虫嫌いの私ですが、きっと自然と人が共存している風景が好きなのかもしれません。花も、虫も、人もみんなそろって里山の風景なんですね。自然観察隊に参加した子どもたちは、きっとそのあたりを感じて、虫を追いかけてくれるといいなと思います。（虫嫌いの自然観察隊より）

4、ピオトープ関連（連載ピオトープ近辺の案内）

— “阿潭（あたみ）駅家は、二俣瀬にあったか？” （田村 勝芳 記）

ふるさと宇部の歴史を学ぶ会で、美東町教育委員会の長谷川和美講師の話を毎月1回聴講しています。この話しのなかで阿潭駅家のことが話題になりました。会員の吉本 正さんから借りた郷土二俣瀬（児玉一雄著 昭和48年発行）の中にもこの阿潭についての記述がされていました。7世紀の中頃（1250年前）には、山陽道が二俣瀬地区の北東部の割木松から南西部に向かって地区の中央部を貫通したとのこと。周防国から長門国に入っての最初の宿駅である阿潭駅家は、厚東川を渡った付近にあったとされているが、何処で厚東川を渡ったのかが解らないので、木田説や吉見、持世寺等と諸説があるようです。二俣瀬と厚東を合わせて一つの地区を形成していたとの説からも、木田や車地の駅家が阿潭と呼ばれたと考えてもおかしくないといわれているとのこと。

会報に毎号珍説フタマタセを投稿して会員を楽しませてくださった吉富壮介さんは、5月23日に亡くなられて会報の第24号が遺稿となりましたが今頃は天国への階段を登る途中かとおもいます。天国にて続編の珍説フタマタセ阿潭駅家は久留馬地にあったと執筆をして会報に投稿をお願いしたいものです。編集責任者も会員の原稿不足に悩んでいますので宜しくお願いします。

5．来訪者の感想（宇部市婦人会協議会だより 平成15年3月31日号より）

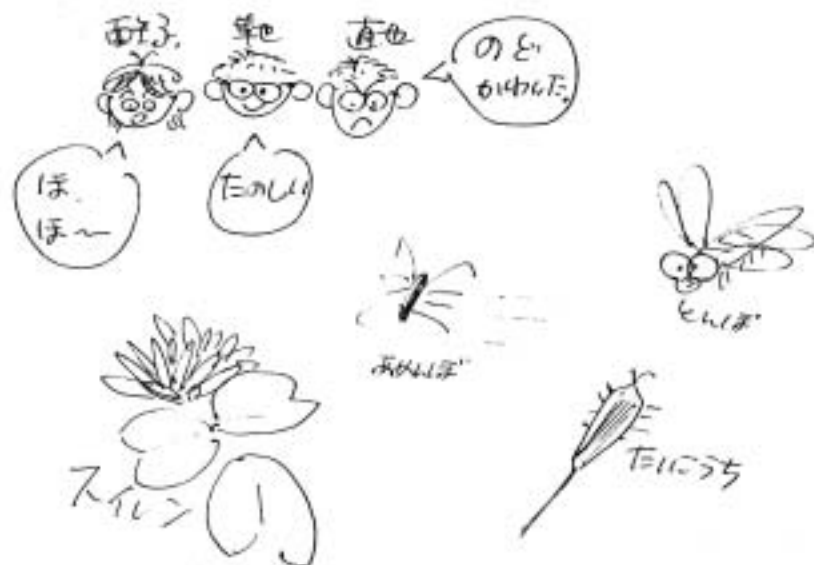
— ピオトープ二俣瀬の見学について — （藤山 堀 恵子 記）

3月6日、宇部市婦人会協議会会員40名は、横なぐりの雨の中、二俣瀬ふれあいセンターへ集合した。3月定例の会議を済ませ、10時30分から「えんぼとたんぼの始発駅」里山ピオトープを見学。地元の「里山ピオトープ二俣瀬をつくる会」の方々の説明を聞くが、風雨が強くなり、寒さもひとしお。ピオトープを造るにあたっての経緯を話された中で、昔ながらの生き物が、自力で生きて行けるようにという目的で作られたことがわかった。自然と町の接点、緩衝地帯である里山に重点が置いてあるだけに、町の雑音を忘れ、子供の頃に帰って懐かしさがある。水車と棚田のコントラスト、小川の流れとメダカの姿は何とも言えない風情があった。まさに故郷の歌を口ずさみたくなる気分であった。小学生の体験学習として、田植え、稲刈り、はぜ掛けから収穫まで、13年度は4俵半のもち米が取れたという。それをお餅にして、子供達のおなかの中へ入った。去年は取れたお米をお餅にして施設（善和園・アスワン山荘・センチュリー21等）にも配られたそうである。12月には蓮も掘り、配られたという。この地域に国会議員が見学に来たり、みどりの日に環境大臣表彰を受けたことも、歴史の一コマに成るだろうと話が続いた。行政に頼らず、ボランティアで出来ていることに熱い思いと涙を感じられた。いったんセンターへ戻り、二俣瀬の婦人会の役員皆様のお世話で、心のこもった手作り昼食を戴き、その後、「駒のかしら」に行き説明を聞いた。最後は永山酒造を見学し、利き酒・甘酒で体を温めた。みんな満面の笑顔。おみやげはもちろん地酒。悪天候にもかかわらず二俣瀬の皆様の暖かさを肌に感じた1日であった。

6．来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

- 7月27日（日）曇。久々やって来ました。昨日、やっと梅雨が明けて、ようやく夏本番です。今日はすごいトンボ採集しました。キイロヤマトンボ♂です。びっくりしてます。ピオトープ周辺の草地の上を飛んでました。まだテネラルな個体です。これからももっと注意深く調査します。（絶滅危惧 種です） 今日見たトンボ： クロイトトンボ、ホソミイトトンボ、キイトトンボ、モノサシトンボ、シオカラトンボ、チョウトンボ、クロスジギンヤンマ、ウチワヤンマ、コオニヤンマ、オニヤンマ、ハラビロトンボ、ネキトンボ、ショウジョウトンボ、ヤブヤンマ、グンバイトンボ、タカネトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ。やっぱり来てよかった。（by 原）
- せっかくの東屋がこれでは危なくて利用できない。上の物をのけてこの中を有効に利用したらどうか。こんな物は外に出した方がよい。（7月31日 夕方来た者） （トウミ〔唐葦〕は屋根下から降りました。大切なものを寄付いただいていますので外では失礼に当たります。狭いのですが東屋内に入れときます。事務局）
- 8月2日（土）曇。かぶと虫をつかまえるために来ました。朝5時すぎに来たけど一匹きりませんでした。でも、いそこはトンボとりにもちゅうで、楽しそうです。あ～ぬむい。（藤本悠未）
- 8月10日（日）台風10号が通過し、雲ひとつない青空です。ツバメが田園の上を飛び回り、巣立ちしたヒナがピオトープ入口の電線に並んでいました。生まれたばかりのツバメのヒナは、田園が黄金色に染まる頃には南に帰ります。そして来年の春、二俣瀬に戻ってきます。人間より、確実に季節の変化を感じて渡るのです。今年はウグイスがまださえずっています。＝今日見られた野鳥＝ スズメ、ツバメ、ハシブトガラス、キジバト、カワウ、ホオジロ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ミサゴ、カワセミ、セグロセキレイ、メジロ、ウグイス。（K・S.）
- ちばけんいちかわしからきました。またくるね。（記載者・日にちが不明）

- 8月12日(火)千葉県舟橋市在住の折田親子です。メダカ、イトトンボ、スイレンの花等...、子供たちがよろこんでいます。空気がウマイ。緑がキレイ。おじさんが親切に説明してくれました。むし暑い日ですが、今年の夏は涼しいです。(下の絵はノートに書かれていました。)



- 8月24日(日)バケツとあみを持ち、小さな川をさがしてドライブ中、かん板を見つける 来てみました。思いがけず、ステキな場所に出会える 子ども達も大よろこび。長男(5才の隆成)を先頭に、志優(3才) 奏真(0才)をかかえた母と父は、わくわくのぼうけんができました。たいこうちや糸とんぼ なつかしかったです。ぜひまた来たいです。ありがとうございました。 長岡ファミリー
- 途中、トラックに乗って おじちゃんが草刈りに来られ 1人、汗だくで頑張っていました。ここの自然は、おじちゃん達の手で守られてるんですね。これからも よろしく願いますね。次回は秋、少しずつ涼くなってから ぜひまた来たいです。(宇部市東平原1丁目 6-16.203 長岡隆志)

6. 会よりの連絡事項

- (1) 湿地帯のスゲ草とガマの穂が他の植生を害していました2,3の人に相談の上一部刈り取りましたのでお知らせします
刈った草は9月の第1日曜日に処分したくお知らせします。

7. 編集後記

このまま、盛夏らしい炎暑が 続く事も無く、秋を迎えるのなら、それも少し物足りない気分です。でも、現実問題としてもお米とか野菜の出来が、心配です。我が家の、猫の額ほどの畑でも、良く出来たのは キュウリだけでした。花も、朝顔だけはどんどん伸びて、良く咲きましたが、後は情けない状態です。植物は、日照時間と直結していると、今更ながら分かるしこれからの天候が、気になります。先日、帰省した娘一家と、久しぶりにピオトープへ、行って来ました。最近、何かと用事が出来て、作業に参加出来なくて、本当に久しぶりでした。緑一面の景色が 眼の前に広がると、何だか懐かしい気分になります。誰も居なくても、とんぼや蝶は飛んでいるし、緑はどんどん増えるし、雰囲気はいつも違ってきます。良い所だなあーと、心から思います。でも、正直な所 マムシに注意が、気になります。作業の時は、長靴を履いているし、そんなでも無いのですが.....。結局、木製の観察道の上とか、山の直ぐ下の道とかで、のんびりと楽しみました。3歳の女の子の孫が、いつの間にか小さい花ばかり集めて、花束を作っていました。帰る時は、側の小川に流していましたが、身近にのどかな自然のある生活を、楽しめる様にと願いながら、ピオトープを後にしました。(大村 美智子 記)